

# 国際ボランティアの 実情、現場の声で紹介

## JVCブックレット創刊

紛争地域や途上国でのボランティア活動を展開する日本国際ボランティアセンター(JVC)が、JVCブックレット(めこん)に写真IIを創刊した。現場の声で、暗くて堅いイメージが先行しがちな世界を、手に取りやすく紹介している。



まず刊行したのは、酒井啓子・東京外大教授がボランティア3人と対談した『イラクで私は泣いて笑う』(966円)と、ボランティア自身の筆による『ガザの八百屋は今日もからっぽ』(小林和香子著、882円)。新書とほぼ同じサイズで、シンプルな表紙に意表を突く題名。写真にもしばしば1冊丸々を使っており、分量も100ページと読みやすい。

『イラクで』は、「武装勢力」とは日本「武裝勢力」とは日本で言う「ヤンキー」が過激化したようなものという指摘から、フリージャーナリストの活動を支援するために、悪いと思ったテレビ番組で局に抗議するより、いい番組を褒める電話をする方がいいといった「実践的」な話まで盛りだくさん。『ガザ』は、パレスチナ、ガザ地区の暮らしを描く。ガソリンの代用で使い古しの食用

油を使うため揚げ物のおいがする自動車の話など、現地を長く観察した人ならではの視点。今年中に、紛争地域でのPRT(軍民が一体化した援助)の批判などさらに2冊を出す。その後は、インド洋津波被災地の話や国連改革、日本と途上国の貧困問題などを題材として検討している。谷山代表理事は「さまざまな現場で得た蓄積をシリーズで示すことで、新しい世界の像を描いていきたい」と意気込んでいます。

油を使うため揚げ物のおいがする自動車の話など、現地を長く観察した人ならではの視点。今年中に、紛争地域でのPRT(軍民が一体化した援助)の批判などさらに2冊を出す。その後は、インド洋津波被災地の話や国連改革、日本と途上国の貧困問題などを題材として検討している。谷山代表理事は「さまざまな現場で得た蓄積をシリーズで示すことで、新しい世界の像を描いていきたい」と意気込んでいます。

【鈴木英生】